

## 平成24年産秋冬野菜の需給・価格の実績

### <概要>

#### 1. 気象

- ・ 11月は、東・西日本では半年ぶりに月平均気温が平年並みに下がった。また、西日本では降水量が少なく日照時間が多かった。
- ・ 12～2月は、北日本から西日本にかけて、寒気の影響により気温が低い日が多く、北・東日本では2年連続、西日本では3年連続の寒冬となった。なお、北日本から西日本にかけての日本海側では降水量が多く、北日本日本海側の日照時間は少なく、北日本太平洋側、西日本太平洋側でも降水量が多かった。また、北日本日本海側では所々で記録的な積雪となった。

#### 2. 生産・供給

- ・ 冬キャベツは、11月及び12月は生育が順調で入荷が増加し、1月及び2月は低温の影響で入荷が減少した。
- ・ 秋冬だいこん及び冬にんじんは、千葉産が12月以降の低温や降雨等の影響から生育が停滞し、入荷が減少した。
- ・ たまねぎは、北海道産の入荷が順調であった。
- ・ 秋冬はくさいは、茨城産が低温の影響で出荷が少なかった2月を除いて、入荷が増加した。
- ・ 冬レタスは、2月を除いて、低温の影響により入荷が減少した。

#### 3. 需要・価格

- ・ 冬キャベツは、11月及び12月は入荷量が多く、2月はレタスの代替需要が減少したため、概ね前年を下回る価格で推移した。
- ・ 秋冬だいこんは、一部の産地で低温や降雪の影響があったため、11月から1月まで前年を上回る価格で推移した。
- ・ たまねぎは、北海道産が潤沢であったため、前年を下回る価格で推移した。
- ・ 冬にんじんは、主産地の低温の影響等により、前年を上回る価格で推移した。
- ・ 秋冬はくさいは、消費地の気温が平年より低く、鍋物需要が増加したことから、11月から1月まで前年を上回る価格で推移した。
- ・ 冬レタスは、主産地の低温の影響により、2月を除いて、前年を上回る価格で推移した。

## 1. 平成24年産冬キャベツの需給・価格の実績

	前回の委員会(24.11.6)での見通し	実績(2月下旬時点)	備考
冬キャベツ (11～3月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>作付面積は、千葉及び愛知は前年並み、神奈川は前年をかなり上回る見込み。</li> <li>生育状況は、猛暑の影響から、一部生育に遅れがみられたもの、9月以降は、生育が回復し、作柄は良好。</li> <li>出荷量は、期間を通して、前年を上回る見込み。</li> <li>期間を通して順調な出荷が見込まれることから、価格は、前年を下回って推移する見込み。</li> <li>なお、加工・業務用については、年内は価格が安いので、国産が主体となって利用されるものの、年明け以降は中国産及び韓国産が出回る見込み。</li> </ul>	<p>(入荷量)</p> <p>11月は、千葉産及び愛知産の生育が順調に推移した。千葉産は、定植の遅れたものと通常の時期のものが重なって入荷したため、前年に比べやや入荷増となった。12月は、千葉産は低温の影響で少なめの入荷となったが、愛知産が順調な入荷となったため、前年に比べかなり入荷増となった。1月及び2月は、千葉産及び愛知産は低温の影響から、前年に比べ入荷減となった。</p> <p>期間全体としては、前年並みで、平年をやや上回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:100)</p> <p>(価格)</p> <p>11月は、入荷量が多かったため、前年を大幅に下回った。12月は、レタスの代替需要もあり、価格は上昇して前年並みとなり、1月は、平年を大幅に上回るものの、高かった前年をかなり下回った。2月は、レタスの価格が落ち着き、代替需要が減少したため、低温等の影響から高かった前年を大幅に下回った。</p> <p>期間全体としては、前年をかなり下回り、平年をやや下回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:86)</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成24年産冬キャベツの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

### 入荷量対比

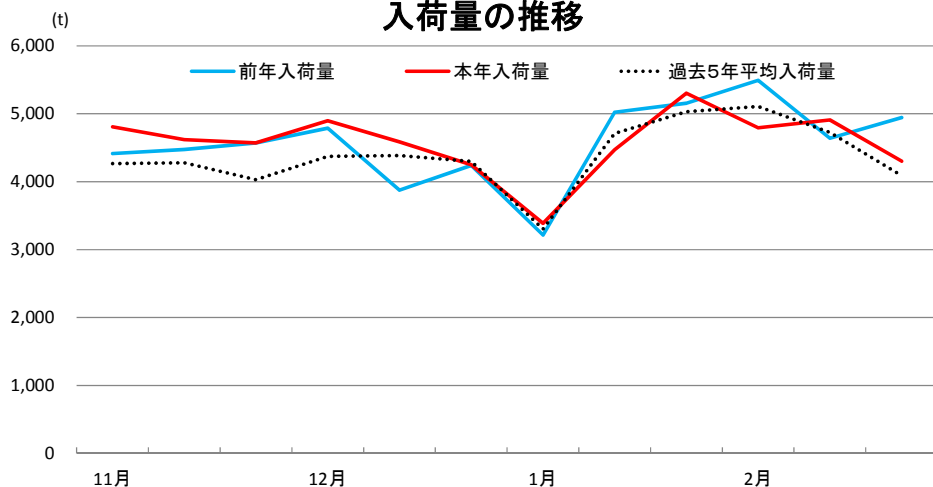
	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	109	103	100	102	118	100	105	89	103	87	106	87	100
	104			106			98			93			
過去5年平均比	113	108	113	112	105	99	103	95	105	94	104	105	104
	111			105			101			101			

### 卸売価格対比

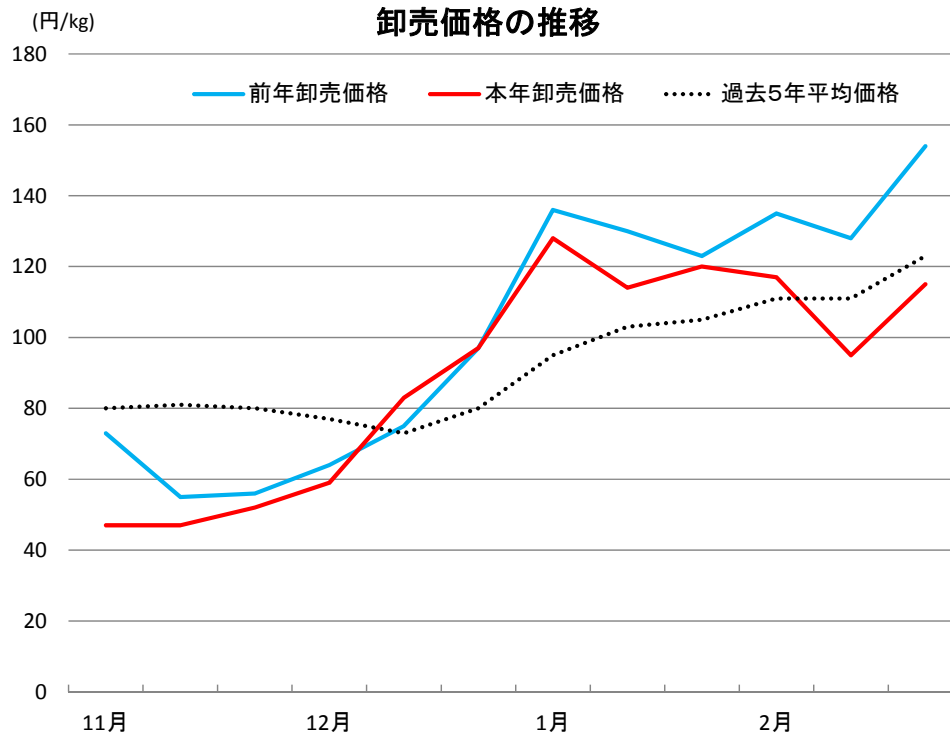
	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	64	85	93	92	111	100	94	88	98	87	74	75	86
	80			101			93			78			
過去5年平均比	59	58	65	77	114	121	135	111	114	105	86	93	95
	61			103			118			96			

(参考2) 平成24年産冬キャベツの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

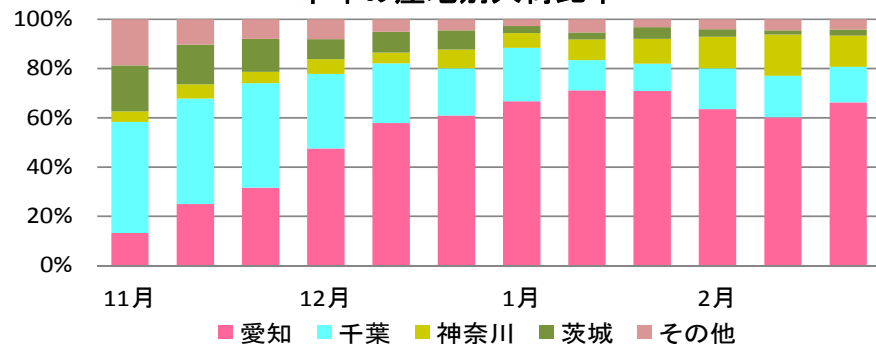
### 入荷量の推移



### 卸売価格の推移



### 本年の産地別入荷比率



資料：東京青果物情報センター

## 2. 平成24年産秋冬だいこんの需給・価格の実績

	前回の委員会(24.11.6)での見通し	実績(2月下旬時点)	備考
秋冬だいこん (10～3月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作付面積は、千葉、神奈川、徳島ともに前年並みの見込み。</li> <li>・生育状況は、一部産地に干ばつや台風の影響があったものの、大きな被害はなく、概ね良好。</li> <li>・出荷量は、11月は前年並み、12月以降は前年を上回る見込み。</li> <li>・期間を通して概ね順調な出荷が見込まれることから、価格は、概ね前年を下回って推移する見込み。</li> <li>・気温が低いと肥大が進まず、歩留まりが悪くなることに加え、消費が伸びることから、価格が上昇する可能性もある。</li> <li>・だいこんは、カット売りの割合が増加している。また、加工・業務用においては、市場外流通のウエイトが高くなっている。</li> </ul>	<p>(入荷量)</p> <p>10月は、北海道産及び青森産が順調な入荷となったため、入荷量は前年並みとなった。11月は、定植が遅れていた千葉産が回復したため、前年に比べやや入荷増となった。12月は、千葉産は、中旬以降低温の影響から生育が停滞したが、神奈川産の生育が順調であったため、前年に比べかなり入荷増となった。1月は、千葉産及び神奈川産は、低温や降雪の影響があったものの、前年が低温で入荷量が少なかったため、前年に比べやや入荷増となった。2月は、低温が月上旬まで続いたものの、その後、天候が回復し入荷増となったため、前年並みとなった。</p> <p>期間全体としては、前年をやや上回り、平年並みであった。 (10～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:103)</p> <p>(価格)</p> <p>10月は、順調な入荷となったため、前年を大幅に下回った。11～1月は、一部の産地で低温や降雪の影響があったため、前年に比べ高値で推移した。2月は、中旬以降天候が回復し入荷増となったため、平年をかなり上回るものの、低温等でかなり高値であった前年を大幅に下回った。</p> <p>期間全体としては、前年をわずかに下回り、平年をかなり上回った。 (10～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:98)</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成24年産秋冬だいこんの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

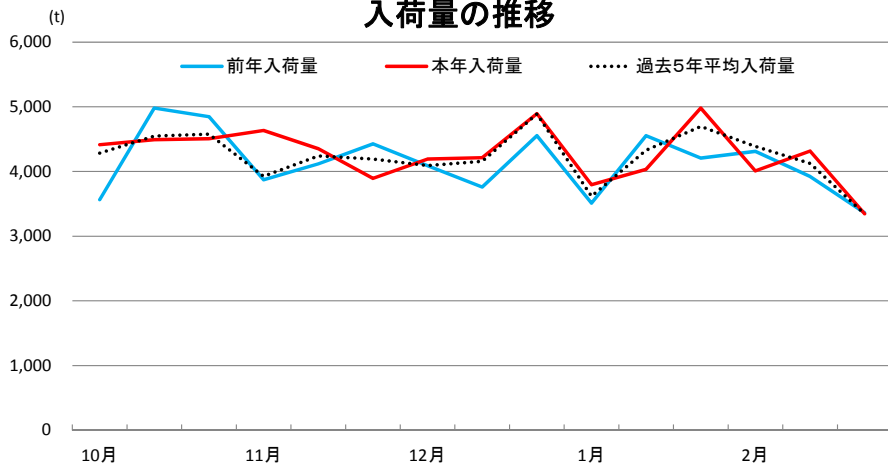
	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	124	90	93	120	106	88	102	112	107	108	89	118	93	110	100	103
	100			104			107			104			101			
過去5年平均比	103	99	98	118	103	93	102	101	100	105	93	106	91	105	100	101
	100			104			101			101			98			

卸売価格対比

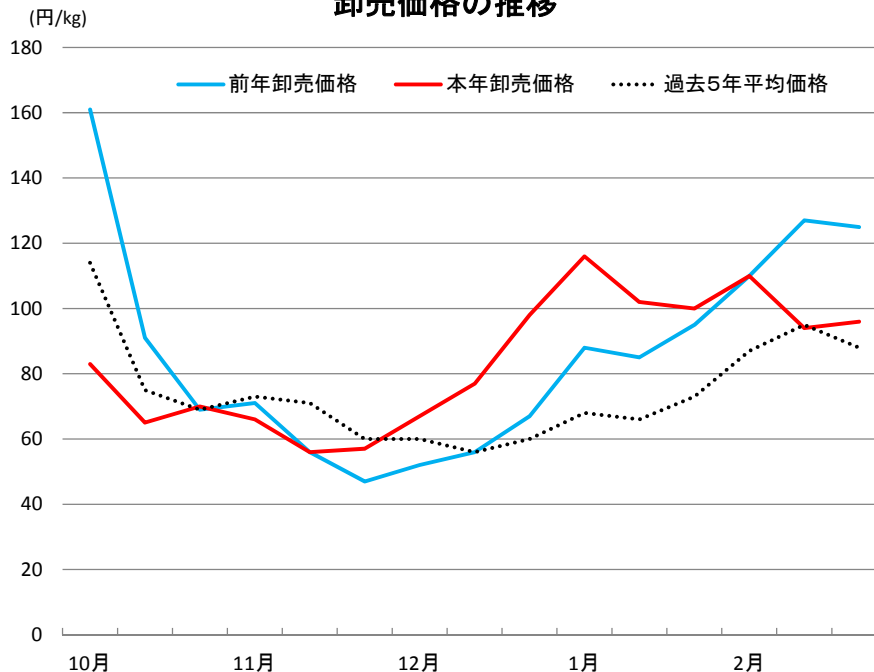
	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	52	71	101	93	100	121	129	138	146	132	120	105	100	74	77	98
	72			103			139			117			83			
過去5年平均比	73	87	101	90	79	95	112	138	163	171	155	137	126	99	109	112
	86			88			139			150			111			

(参考2) 平成24年産秋冬だいこんの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

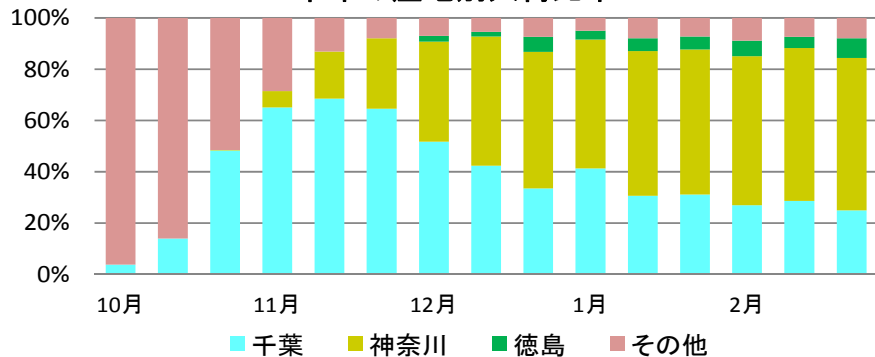
入荷量の推移



卸売価格の推移



本年の産地別入荷比率



資料：東京青果物情報センター

### 3. 平成24年産たまねぎの需給・価格の実績

	前回の委員会(24.11.6)での見通し	実績(2月下旬時点)	備考
たまねぎ (11～4月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作付面積は、北海道は、前年をやや上回る見込み。</li> <li>・生育状況は、5月上旬の降雨の影響から、一部、定植作業に遅れが見られたものの、生育は順調でほぼ平年並み。</li> <li>・出荷量は、期間を通して、前年を上回る見込み。</li> <li>・期間を通して順調な出荷が見込まれることから、価格は前年を下回って推移する見込み。</li> <li>・加工・業務用においては、国産たまねぎの生育状況にかかわらず、輸入剥きたまねぎへの需要は根強い。</li> <li>・今年は、中国産が不作であったことから、皮付きたまねぎの内外価格差は小さくなっている。</li> </ul>	<p>(入荷量)</p> <p>11～2月は、8月に収穫された北海道産が作柄良好であったため、順調な入荷となった。1月及び2月は、前年に比べ入荷量が減少したものの、期間全体としては、前年及び平年に比べかなり入荷増となった。</p> <p>(11～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比: 106)</p> <p>(価格)</p> <p>11～2月は、順調な入荷となったため、期間全体としては、前年をかなり下回り、平年を大幅に下回った。</p> <p>(11～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比: 86)</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成24年産たまねぎの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

### 入荷量対比

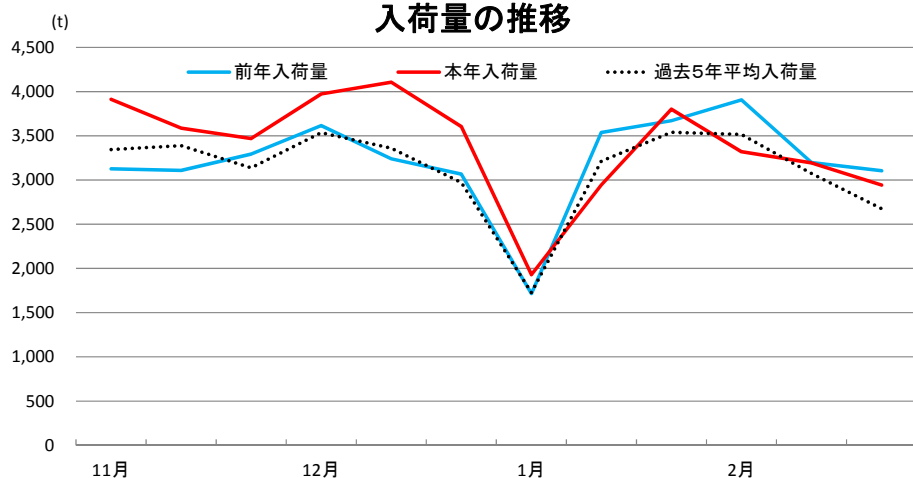
	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	125	115	105	110	127	118	112	83	104	85	100	95	106
	115			118			97			93			
過去5年平均比	117	106	111	112	122	121	112	92	107	94	104	110	109
	111			118			102			102			

### 卸売価格対比

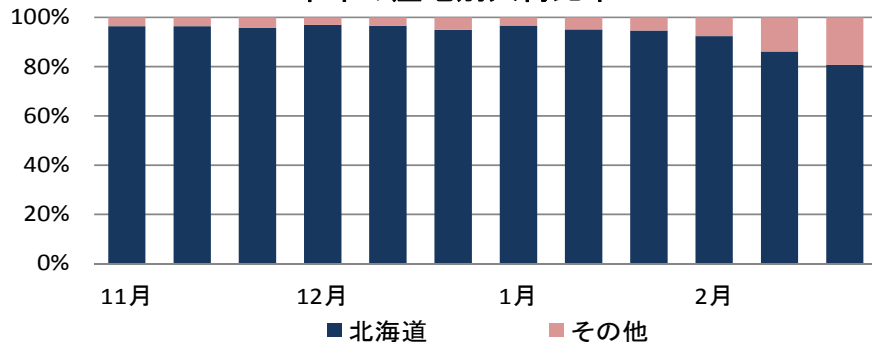
	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	77	77	78	80	80	84	83	89	92	96	97	98	86
	77			81			88			98			
過去5年平均比	76	73	72	74	74	77	82	81	83	84	90	93	80
	74			75			82			89			

(参考2) 平成24年産たまねぎの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

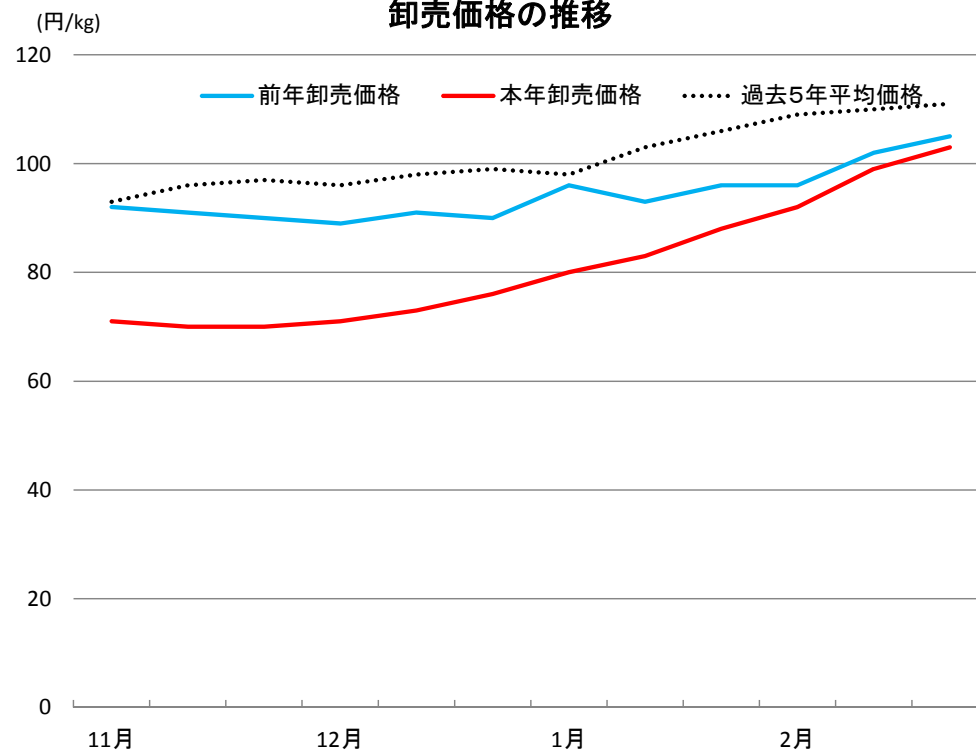
### 入荷量の推移



### 本年の産地別入荷比率



### 卸売価格の推移



資料：東京青果物情報センター

#### 4. 平成24年産冬にんじんの需給・価格の実績

	前回の委員会(24.11.6)での見通し	実績(2月下旬時点)	備考
冬にんじん (11～3月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作付面積は、千葉は前年並み、愛知はやや下回るものの、長崎はやや上回る見込み。</li> <li>・ 生育状況は、一部の地域で豪雨や台風の影響を受けたが、順調に生育。</li> <li>・ 出荷量は、期間を通して前年を上回る見込み。</li> <li>・ 期間を通して順調な出荷が見込まれることから、価格は、前年を下回って推移する見込み。</li> <li>・ 家計消費はM～Lサイズ、加工・業務用は2L～3Lサイズが好まれることから、それぞれの需要に見合った生産を行う必要がある。</li> <li>・ 外食等では、国内価格が高くなると輸入を手当てするようになる。</li> </ul>	<p>(入荷量)</p> <p>11月は、北海道産及び千葉産の生育が順調であったため、前年並みとなった。12月は、上旬に千葉産が降雨の影響により生育が悪く出荷量が減少したものの、前年に比べわずかに入荷増となった。1月及び2月は、千葉産及び埼玉産が低温の影響により肥大が進まなかったため、前年に比べかなり入荷減となった。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年をやや下回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:97)</p> <p>(価格)</p> <p>11月は、順調な入荷となったため、前年並みであった。12月は、入荷量は増加したものの、年末に向けて需要が増加する中で、千葉産が降雨の影響で生育が悪く年明け以降の入荷減が見込まれたことから、前年を大幅に上回った。1月以降は、入荷量が減少したことから、1月は、前年を大幅に上回り、2月は、前年をかなり上回った。</p> <p>期間全体としては、前年を大幅に上回り、平年をかなり上回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:116)</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪市中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。



(参考1) 平成24年産冬にんじんの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

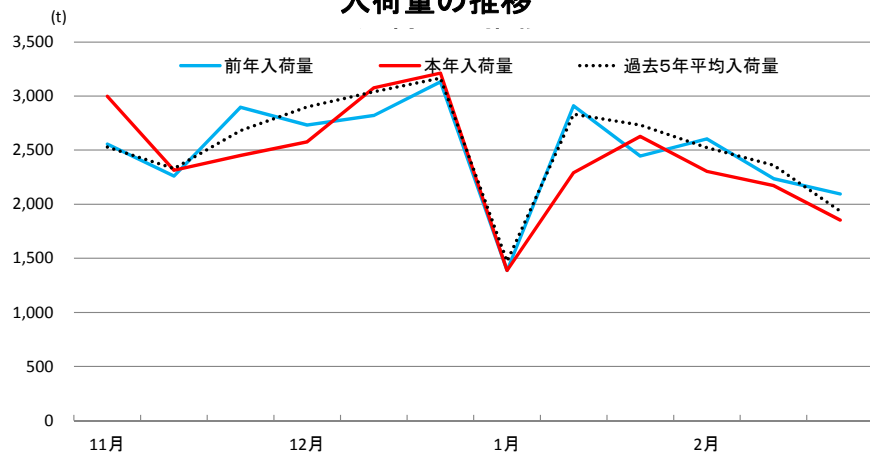
	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	117	102	85	94	109	103	100	79	107	88	97	88	97
	101			102			94			91			
過去5年平均比	119	99	91	89	101	102	94	81	96	91	92	96	96
	103			97			90			93			

卸売価格対比

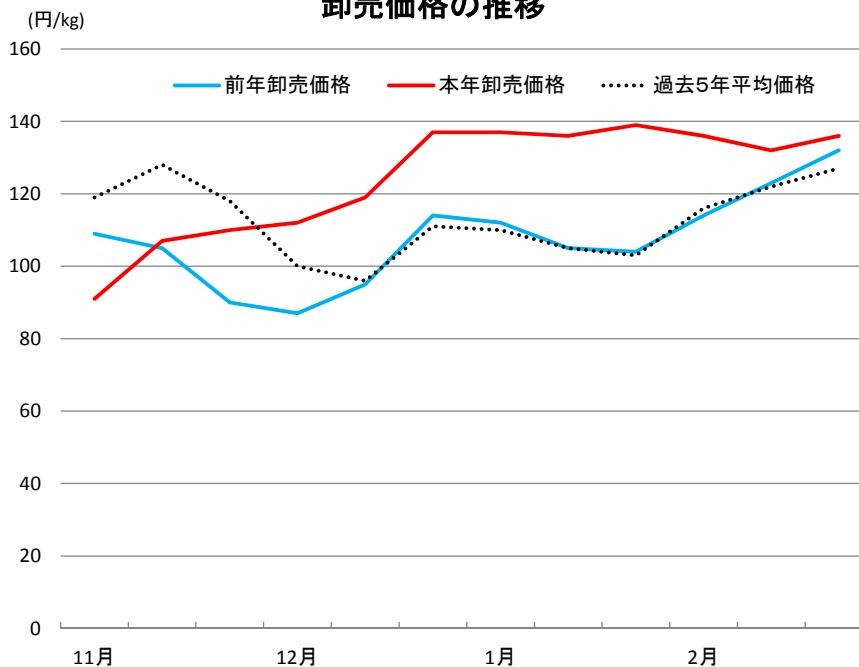
	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	83	102	122	129	125	120	122	130	134	119	107	103	116
	101			125			129			111			
過去5年平均比	76	84	93	112	124	123	125	130	135	117	108	107	110
	84			120			130			112			

(参考2) 平成24年産冬にんじんの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

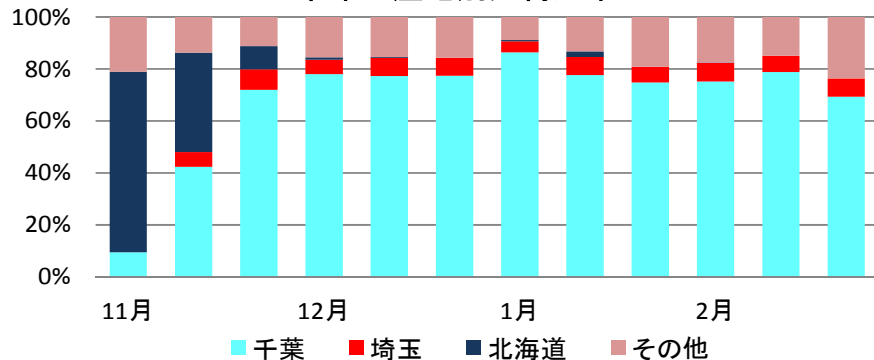
入荷量の推移



卸売価格の推移



本年の産地別入荷比率



資料：東京青果物情報センター

5. 平成24年産秋冬はくさいの需給・価格の実績

	前回の委員会(24.11.6)での見通し	実績(2月下旬時点)	備考
<p>秋冬はくさい (10～3月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作付面積は、茨城は前年並み、愛知はやや下回るものの、兵庫はかなり上回る見込み。</li> <li>・生育状況は、一部の産地で台風等の影響を受けたが、夏場の干ばつの影響もなく、順調に生育。</li> <li>・出荷量は、茨城が年明けに作型を変更したことから、11月は前年を下回り、12月は前年並み、1～2月は前年を上回る見込み。一方、3月は兵庫の作型の変更により、前年を下回る見込み。ただし、11月の気温が低くなると生育が停滞し、2月以降の供給が下がる可能性がある。</li> <li>・11～12月にかけては、去年は気温が高く安価であったことから、価格は、前年を上回ると見込まれるが、1月以降は、前年を下回る見込み。</li> <li>・O-157による食中毒の影響により、漬物需要が減少しており、今後も尾を引く可能性がある。</li> <li>・11月の気温が低くなると出荷量が減少し、2月以降の価格が上がる可能性がある。</li> </ul>	<p>(入荷量)</p> <p>10月は、長野産の生育が順調であったため、前年に比べかなり入荷増となった。11月は、茨城産の生育が順調であったため、前年に比べやや入荷増となった。12月及び1月は、低温の影響により生育は停滞したものの、前年が夏場の高温や少雨の影響で入荷量がやや少なかったため、12月は、前年に比べかなり入荷増となり、1月は、前年に比べやや入荷増となった。2月は、兵庫産は順調に入荷したものの、茨城産が低温の影響により入荷量が少なかったため、前年に比べかなり入荷減となった。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年をやや上回った。 (10～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:103)</p> <p>(価格)</p> <p>10月は、順調な入荷となったことに加えて、台風等の影響から高値であった前年を大幅に下回った。11月は、順調な入荷となったものの、前年が天候に恵まれ安値であったため、前年を大幅に上回った。12月及び1月は、消費地の気温が平年より低く、鍋物需要が増加したことから、前年を大幅に上回った。2月は、低温の影響により前年より入荷量が少なかったものの、下旬に向けて安くなったことから、前年並みとなった。</p> <p>期間全体としては、前年をやや下回り、平年をやや上回った。 (7～9月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:97)</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成24年産秋冬はくさいの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比(前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

### 入荷量対比

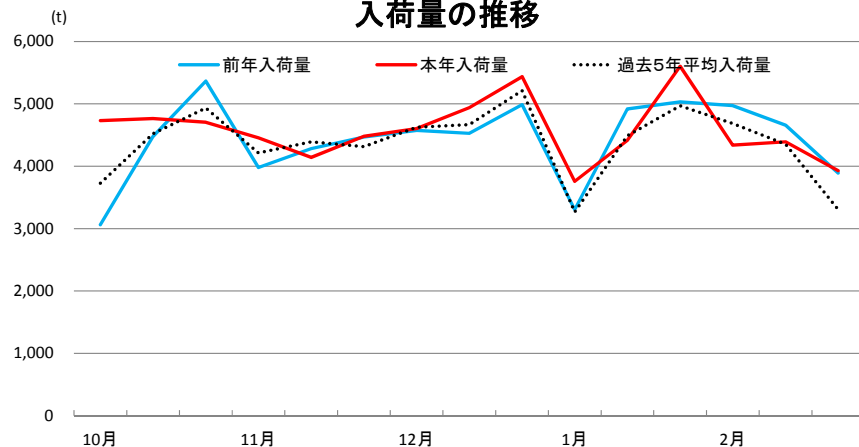
	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	155	106	88	112	97	100	101	109	109	114	90	111	87	94	101	103
	110			103			106			104			94			
過去5年平均比	127	105	95	106	94	104	100	106	104	115	98	113	93	101	119	105
	108			101			103			108			103			

### 卸売価格対比

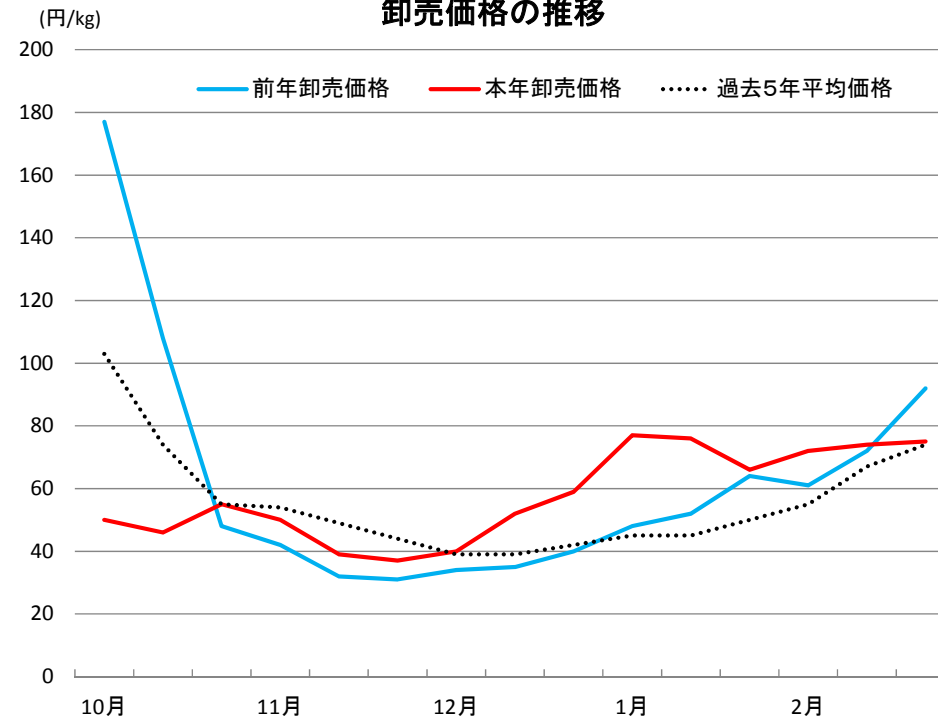
	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	28	43	115	119	122	119	118	149	148	160	146	103	118	103	82	97
	51			120			142			129			100			
過去5年平均比	49	62	100	93	80	84	103	133	140	171	169	132	131	110	101	105
	67			86			128			153			114			

(参考2) 平成24年産秋冬はくさいの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移(東京都中央卸売市場)

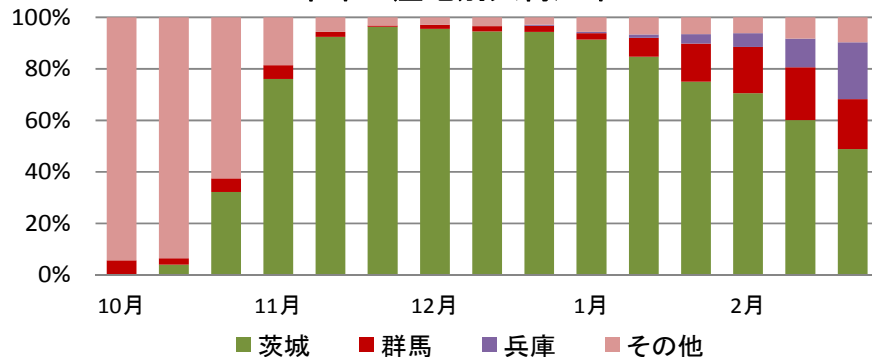
### 入荷量の推移



### 卸売価格の推移



### 本年の産地別入荷比率



資料：東京青果物情報センター

6. 平成24年産冬レタスの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会(24.11.6)での見通し	実績(2月下旬時点)	備考
冬レタス (11～3月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作付面積は、茨城は前年をわずかに上回り、静岡は前年並み、兵庫はわずかに下回り、香川はやや下回る見込み。</li> <li>・ 生育状況は、一部の産地で干ばつや台風の影響を受けたが、その後は順調に生育。</li> <li>・ 出荷量は、期間を通して、概ね前年を上回る見込み。</li> <li>・ 期間を通して概ね順調な出荷が見込まれることから、価格は、11月を除き前年を下回って推移する見込み。11月は、昨年は安値だったことから、前年を上回る見込み。なお、天候に大きく左右される品目であることから、天候次第で価格が変動する可能性がある。</li> <li>・ 九州の加工・業務用向け産地の作柄次第で、価格が上昇する可能性がある。</li> <li>・ 加工・業務用では、米国や台湾から一定量の輸入がある見込み。</li> </ul>	<p>(入荷量)</p> <p>11～1月は、茨城産、静岡産、香川産及び兵庫産が、低温の影響から、11月は、前年に比べ大幅に入荷減となり、12月は、前年に比べかなり入荷減となり、1月は、前年に比べ大幅に入荷減となった。2月は、静岡産及び香川産が気温の上昇とともに生育が回復したため、前年並みの入荷となった。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年をかなり下回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:87)</p> <p>(価格)</p> <p>11～1月は、主産地の低温の影響により、入荷量が少なかったため、前年を大幅に上回った。2月は、順調な入荷となり、平年よりかなり上回るものの、前年も低温の影響から高値であったため、前年を大幅に下回った。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年を大幅に上回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:128)</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成24年産冬レタスの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

### 入荷量対比

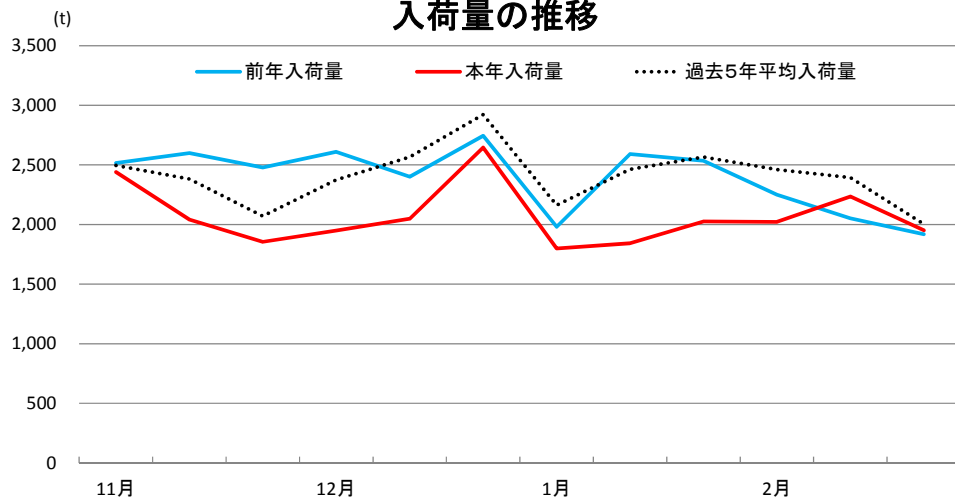
	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	97	79	75	75	85	96	91	71	80	90	109	102	87
	83			86			80			100			
過去5年平均比	98	86	90	82	80	91	83	75	79	82	93	97	86
	91			84			79			91			

### 卸売価格対比

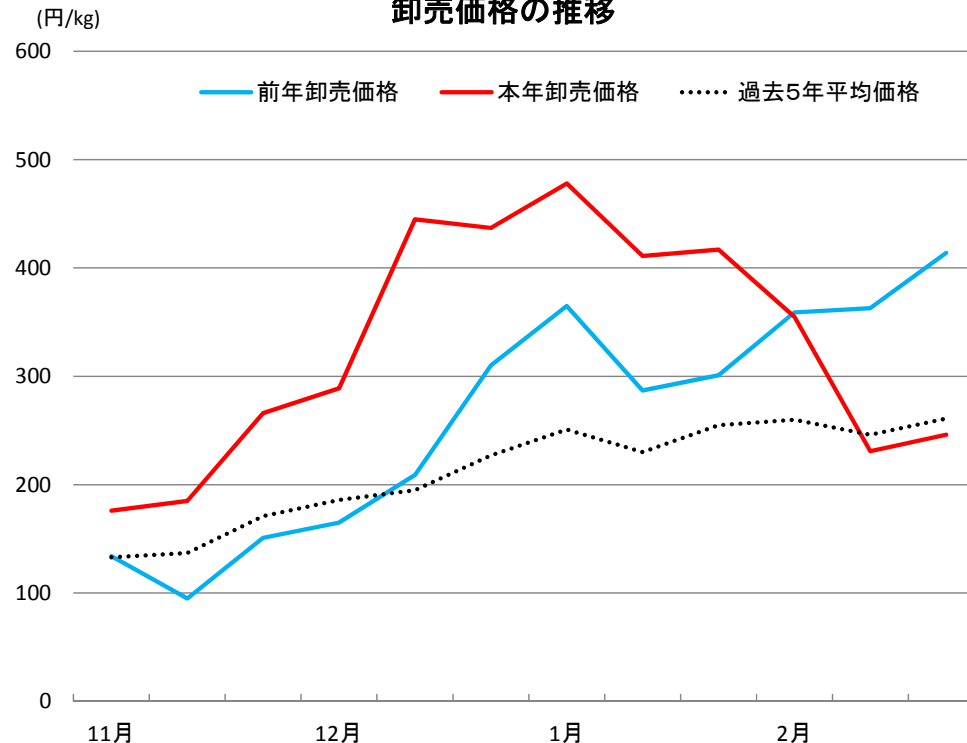
	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	131	195	176	175	213	141	131	143	139	99	64	59	128
	163			172			138			73			
過去5年平均比	132	135	156	155	228	193	190	179	164	137	94	94	153
	140			194			177			108			

(参考2) 平成24年産冬レタスの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

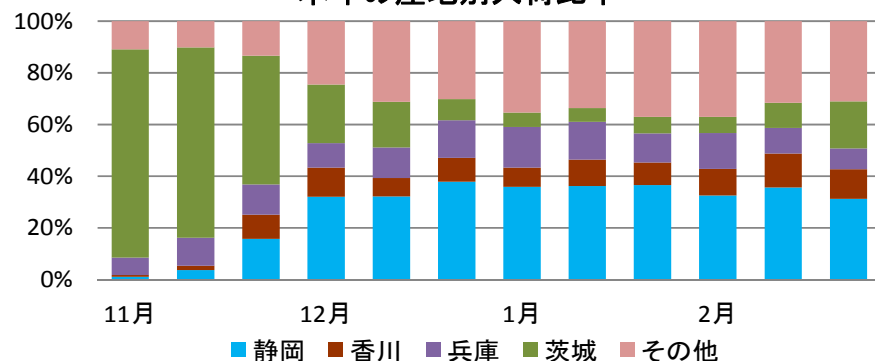
### 入荷量の推移



### 卸売価格の推移



### 本年の産地別入荷比率



資料：東京青果物情報センター